



足立区立六月中学校

令和2年度
第4号
校長 塚原 洋

「変化」

6月22日から一斉登校が始まり1ヶ月、生徒達は普段の学校生活を取り戻しています。求められている制約がある中で、その状況を受け入れ生活し学習や体力の回復に努めてきました。定期テストが終了しましたが、特に3年生の学習への取組が素晴らしいと授業を観ていて感じるものが多々ありました。

また、2年生も1時間目の授業が始まる前に静かに読書や学習をして待つ姿があります。給食の準備も整然と行われており、手洗いの様子など落ち着いた行動が見られ、これからの成長が楽しみです。

1年生も学校生活にも慣れ友達との学習にも意欲的であり「クラスが楽しい」という声も聞こえてきます。初めての定期テストの経験をこれから生かしてくれると期待しています。



不易と流行

新型コロナウイルス感染症対策、対応ということで日本や世界が変化を求められています。生活面だけでなく教育界でも変化が見られました。ICTを利用したのオンライン授業など、対応が求められ対策を取る必要に迫られたからこそその変化です。

不易と流行とはよく聞く言葉ですが松尾芭蕉の発した言葉を弟子が残したものです。芭蕉は「不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわかまえざれば風(ふう)新たならず」と語り伝えました。

「不易」とは、ずっと変わらないこと、「流行」とはその時々に合わせて変えていくことです。芭蕉は「不変の真理を知らなければ基礎は確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」と言い、「両者の根本は一つである」という考えに基づいています。

学校教育における「不易」とは日本教育が培ってきた型や形式、一斉授業の指導技術の高さや規範意識の育成などであると考えられます。

また、教育者の森信三の言葉にある「**教育とは流水に文字を書くようなはかない業である。だがそれを巖壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ。**」という教師としての資質や能力、思いや姿勢にあると考えます。

「流行」とは、上記のような技術革新を取り入れながら、教師が「なぜ主体的で対話的な学びが必要となっているか」を理解し、現在の生徒の発達段階や既習事項の把握と予測を立てにくい世界を生き抜く力を身に付けさせる「生徒への学習方法」の提供ということになります。

これは生徒が生涯に渡り「自らの課題を発見し、思考を重ね、判断し、表現していく」力を身に付けさせていくことが必要であり、「現在の学びを将来の生活にどのように生かしていくか」ということに繋がります。

AIが発達しても取って代わられない職業の一つとして教員があります。学校として今後求められる力を身に付けさせる授業を実践していく上で、生徒は「学び方を学ぶ、勉強の仕方を勉強する」ことへと意識を変化させ、我々教師も授業方法を変化させる必要があります。

イギリスの自然学者ダーウィンの言葉に『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。』とあります。



六月中学校でも、先生方が知識の伝達に終始する教え込み学習ばかりではなく、教師自ら変化し、授業改革を進め、生徒の学習意欲を喚起し、引き出すような授業が展開されています。

生徒の学習意欲が高まっている今だからこそそのチャンスです。

アメリカの学者ウィリアム・ウォードは『普通の教師は、言わなければならないことを喋る。良い教師は、生徒に分かるように解説する。優れた教師は、自らやってみせる。そして、本当に偉大な教師というのは、

生徒の心に火をつける。』と生徒の主体的な学びを引き出す教師について語り、森信三は同じように『教師がおのれ自身あかあかと生命の火を燃やさずして、どうして生徒の心に点火できますか。』と教師としての本質を語っています。

最後に松尾芭蕉は、俳諧上達の秘訣を聞かれ、「過去の自分に飽きること。」と答えたそうです。その真意は「常に努力を重ねつつ、さらに新境地を切り開いていこうとするからこそ、そこに進歩があり、物事の根本・本質により近づける」との考えであり、本質的なもの『不易』を探求するためには、常に変化を必要としているということと理解できます。

今後も六月中学校として、次代を担う生徒の育成を推進するためにも、教師自らが常に情熱をもって授業改革を行い、子供の心に火をつけるような愛情のある授業展開を実践することで、卒業後も生涯に渡り学び続け、本質を探究、追求する事のできる基礎を培ってまいります。ご家庭での学習への支援と地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

生徒朝礼 2020. 7. 13

放送による生徒朝礼が行われました。
生徒会長からのメッセージです。

生徒会長の3年1組 時岡美菜子です。今年度第一回である本日は、皆さんが六月中の生徒の一員であるという自覚を持ってもらうため、金曜日に開かれた中央委員会についてお話しします。

中央委員会とは、各委員会の委員長が集まって話し合う場であり、生徒会本部も参加しています。中央委員会では、専門委員会が出た意見をまとめて、新しい取り組みを計画し、委員会同士で連携して、活動を活発化させるための方針を決めます。

この方針をもとに、各委員会が活動内容を考えます。そのため、中央委員会は学校をよりよくする活動を作り出す重要な機関です。

そして、新しい活動については、実行するかどうか生徒総会で皆さんの意見を聞いて最終的に決定します。ですから、皆さんも学校を改善することに関わっているという意識を持ち、中央委員会に関心を向け、生徒総会を身近なものとして参加してください。

今年度、生徒会本部は「学習面の向上」「地域への貢献・協力」という2つの軸を中心に活動を行っていきたいと思います。特に学習面の取り組みについては、本格的に新しい仕組みをつくっていく予定です。

一部活動も制限されている中ですが、本部でも精一杯頑張りますので、皆さんも一緒に盛り上げてください。よろしくお願いします。



教室内で生徒の皆さんも真剣に聴いてくれていました。



2020. 6. 26

足立区立六月中学校コミュニティースクール 第1回 運営協議会開催

六月中学校は足立区学校運営協議会設置校として指定されています。その第1回運営協議会が行われ、芦川一男会長をはじめ全14名に運営協議会委員として発令通知書が交付され、代表として校長が足立区学校地域連携担当の豊田様より発令通知書を受け取りました。



教育委員会代表として豊田様からは「六月中学校ホームページの学校紹介欄にある、『私たち六月中学校学校運営協議会と開かれた学校づくり協議会委員は【学ばなければよい活動はできない】をモットーとし学校を支えます。』というメッセージが素晴らしいですね。」とのお挨拶でした。

また、芦川会長から「学校運営協議会は校長の経営方針を承認し、教育委員会や校長に意見を述べるができる。それには、協議会の中で熟議が大切である。だからこそ皆で学んでいかなければなりません。」というお挨拶がありました。

そして、校長から新型コロナウイルス感染症対策や学校の現状、そして今年度の学校経営方針についての説明があり、皆様からの承認を得ることができました。

終了後、引き続き行われた開かれた学校づくり協議会では33名の委員に委嘱状が交付され、運営協議会の報告、組織の編成や各部会協議報告と続き会を終了しました。

詳しくは後日配布される開かれた学校づくり協議会便りをご覧ください。

事務局としてPTA副会長の皆様にもご協力いただいております。

ありがとうございます。



足立区学校運営会議と開かれた学校づくり協議会イメージ図

2020.7 令和2年度 保護者会・進路説明会が開催されました

新型コロナウイルス感染症対策のため延期していた1年全体保護者会、3年進路説明会が開催されました。クラスを分けての開催など工夫しながらの事でしたが、開催できたことが何よりです。2年生は三者面談にて各担任から説明させていただきます。



3年生の進路説明会では小針学年主任から進学に向けての準備として都立や私立など推薦受験や一般受験についての説明がありました。夏からが勝負であることは間違いありません。志望校への進学に向け今から確実に取り組んでいきましょう。

1年生の保護者会にて改めて担任や副担任など学年所属教員を紹介することができました。本来ならば入学式にて行うところですが、保護者の皆様と顔を合わせることができてよかったです。



～これからも協力をお願いします～

新型コロナウイルス感染症対策は今後も学校として引き続き行ってまいります。清潔なハンカチやハンドタオルの持参とマスクの着用の徹底、水筒の持参など引き続きご協力ください。感染症対策においてはご家庭の協力がなくては成り立ちません。今一度、下記をお読みいただき、必要なときには必ずご連絡ください。

1 ご家庭での確認

(1) 健康チェック

- ① 毎朝のお子様の検温をおこない、ご家族も検温するなど健康観察を徹底してください。
- ② 発熱や風邪症状がある場合には登校を控えてください。

2 学校への連絡

(1) 次の場合には学校に速やかにご連絡ください。

- ① お子様に発熱や風邪症状がある。
- ② ご家族がPCR検査を受け、お子様が濃厚接触者として特定された。
- ③ お子様がPCR検査を受ける。
- ④ お子様が海外から帰国や入国した。
- ⑤ お子様のPCR検査が判明した。
- ⑥ ご家族が風邪症状、濃厚接触者、PCR検査を受ける、海外から帰国、入国した。

今後も学校生活だけでなく社会生活では、今まで以上に他者への「配慮」と「気配り」や「思いやり」の気持ちが求められます。

「自分一人だけなら」や「これくらいなら」という、油断は禁物です。手洗いの徹底、マスクの正しい着用、消毒、人との距離の取り方、大きな声での会話を慎むなどを常に意識し、学校、家庭、地域すなわち教職員、生徒、保護者、地域の方々の力で安心・安全な六月中学校をつくり上げていきましょう。ご協力よろしくお願いします。